

## 二宮厚美(神戸大学名誉教授)の講演会 に参加して「参院選後の新たな情勢と憲法運動の展望」

参院選挙の結果は改憲の必要性はないという多数の世論に反して、改憲勢力による議席は 2/3 超となりました。安倍政権による改憲の危機はいつそう強まった感があります。

選挙後、私自身が感じた「空しさ・諦め」は、二宮先生はどう捉えられているのだろうか、心棒を確かめるような気持ちで講演会に参加しました。二宮先生のお話はいつもながら明快でした。改憲勢力の勝利はマスコミを含めての徹底した争点の回避と隠蔽、三大争点であった「憲法」「貧困・格差社会」「原発・TPP」を封印し、特に憲法・消費税は「さわらぬ神にたたりなし」と徹底した迂回作戦であったと。毎日新聞による街角アンケートでは「改憲ライン 2/3」のキーワードを「知らない」が約 6 割、高知新聞の調査でも 83% が知らなかったと・・・世間はそうだったんですね。

このためには、執拗に再生産される日本的伝統「いま・ここ主義」(加藤周一)から脱却しなければならないと二宮先生は強調されました。「いま・ここ主義」とは、時間軸において『いま』、過去のことは水に流す、年が明ければ戦争法は忘れる、舛添が問題になると猪瀬は忘れるという現在中心主義。空間軸での『ここ』、原理・原則にこだわらず状況次第で解釈改憲を許す、安倍改憲には甘い、舛添のような「せこい事件」には敏感に反応する部分中心主義。シールズには「いま・ここ主義」からの脱却傾向が見られるものの、若年層の投票率は低く(20代が最低で 33.3%)、若年層に多い自民支持(18.19歳の投票先は自民 40%)、昔からの「青年＝革新」観、「老年＝保守」観、現在は老若が逆転しているという。鑑賞運動も同じような傾向があり、若者とのように繋がって行くのか、政治の流れと同じく文化の流れも希望の持てる若い人達との連携が必要だと思いました。(ハーモニー・広沢正雄) (2016.7.31 東灘区民センターにて)



## 立命館大学国際平和ミュージアム を見学して

米田さんが国際平和ミュージアムで語り部をされていることを聞いていたこと、以前読んだ「だまし博士のだまされない知恵」の著者である安齋育郎氏が本館の名誉館長であることもあって、今回初めて参加しました。地下の「平和をみつめて」では、語り部の方から、最初に「戦争の悲惨さだけではなく、何故、戦争に至ったのか」を考えてほしいと話され、そのことに思いをはせながら見せてもらいました。国民の耳に良いフレーズには気を付ける必要があること、そうしたフレーズの裏に得をする人がいることなど、表面的なことだけを見ては大事なものが壊されていく、まさに安齋氏の「だまされない」視点を持つことが大事だと感じました。また語り部の方が、父親が徴兵検査で丙種となったことから周囲から非国民と言われないう、ご自身が一生懸命に協力したという話には、人は教育や思想が誤っていてもそれに毒されてしまう弱さや怖さがあることも感じました。2階の「平和をもとめて」の見学では、「戦争がなければ平和なのか」がテーマになっていて、憲法25条の生存権のとおり、人が人らしく生きることができる社会・世界が大切なこと、そのために何をすればよいのか考えることが大事だと感じました。ただ展示物が豊富にあり、お話を聞く以外に十分に見られなかったのが残念で、また機会を見つけて足を運びたいと思います。(タメ吉熊 佐藤 啓一)



今年からできた祝日・山の日(8月11日)に、立命館大学国際平和ミュージアムを、円尾さん、福村さんのガイドで11名が見学してきました。展示内容は、過去の戦争だけでなく、湾岸戦争を始め、今尚続く中近東の戦争の展示もあり、私たちに平和の意味を問いかけてきます。飢餓で苦しむ人達へ何ができるか?というコーナーは大学生のボランティアガイドさんが説明。無言館の絵、岡部伊都子さんのコーナーも必見!

～お芝居と平和～ ⑩

### 100枚目の写真に込められた思い

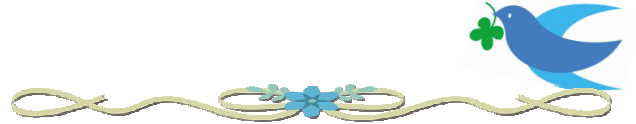
神戸演鑑の7月例会『百枚目の写真 一銭五厘たちの横丁』。舞台上に映し出された何枚もの出征兵士の家族の写真。それは戦場の兵士に送って戦意高揚を図るため、昭和18年陸軍省の依頼で撮られた写真。そして昭和48年。写真を撮った桑原甲子雄から「氏名不詳」と記された99枚の写真を見せられたルポライターの児玉隆也。彼は無性にこの家族の30年後を尋ねてみたくなり、写真が撮られた東京の下町を、写真を持って歩き廻る。

「生きた者、死んだ者、帰って来られたのは運がよかったんだ」という元特攻隊員、呉服屋、際物師。「裏のたくわん屋の奥さん。遠い戦地にいる旦那を優しい目で見つめている」という蠟燭屋。「3回も徴兵され、魂抜かれて死んでしまった」指物師。「戦争継続の暗号電報を解読して喜んでいたのに次の日には敗戦だった」というシート屋。「死ぬときに『天皇陛下万歳』なんていう奴なんかいなかった。みんな“お母さーん”だよ」という人。尋ねあてた人が写真を見たときのこれらのことばに重ねるように、多くの消息の分からないままの写真も合わせて99枚、すべての写真が映し出される。

下町の名もない出征兵士や家族のことばをつなぎ、その思いを浮かばせてくれるように、根本という出征兵士の家族の話が創られ、舞台は進行して行く。最後に映される100枚目、根本の家族の写真。あってはならないものとして、その写真が白く消えていくとき、99枚の写真に思いを馳せ、戦争に引き込まれる弱さも持ち合わせているからこそ、「あってはならない」を強く自覚しなければ、という気持ちが広がって来た。

(7月運営サークル 芝生 小黒章司)

8月3日～9日神戸シルバーカレッジ(しあわせの村)で「神戸空襲を記録する会」「マップを作る会」「NPO 法人社会還元センターグループ わ」「神戸に平和記念館をつくる会」「神戸市シルバーカレッジ」の5団体が共催で、神戸空襲写真展を開催しました。土曜、日曜は戦争体験を聞く会もあり、期間中約500名の参加、アンケートも約300通集まったそうです。



### 神戸空襲写真展を見て

知ってるようで知らなかった「神戸空襲」。例会『少年H』や小説「火垂るの墓」で、なんとなくわかったような気がしていたが、実際の写真やお話を伺うことによって、今暮しているこの町のほんの71年前の惨状が実感を伴って伝わってきた。

家に帰って母に戦時中の思い出を聞くと、当時住んでいた川西から見た神戸方面の朱色や敗戦の日の空の青、暑さ、と。展示写真こそモノクロであったが、だからこそ焼けた駅舎や線路を歩く人々と、白く広がる空とのコントラストが印象的だった。

見た日はちょうど8月6日。神戸駅で「原爆展」も見学。1945年、日本国内で起こったことの数々。なぜもっと早く戦争はやめられなかったのか、否、なぜ戦争は止められなかったのか。戦争の記憶は風化させてはならない。(ばばらぎ・大谷紫乃)

### 「平和と演劇」の集い ～いつまでも平和で芝居を観続けたい～

昨年、「安保法制」が強行採決、その後も劇団の人達は「反対」の声をあげ続けています。今回、文化座の若い俳優さん4名に、沖縄音楽の演奏と、「沖縄と平和、そして芝居」のお話しをしていただきます。

日時:10月21日(金) 開演時間:PM2時～ & PM6時30分～ の2回公演

場所:神戸勤労会館 2階多目的ホール 参加費 無料

※ 参加希望の方は、神戸演劇鑑賞会事務局で参加券を受け取ってください。



### 例会場「テアトル9コーナー」に お立ち寄りください!

テアトル9グッズ、また賛同者の方には  
ニュースをご用意しています。

カンパも大歓迎!

### お芝居大好き!九条の会～テアトル9 って何??

2004年、井上ひさし、大江健三郎等9名の著名人が日本国憲法九条を守る「九条の会」を結成。その呼びかけに応え、演劇鑑賞会の会員有志で2005年「お芝居大好き!九条の会～テアトル9」を作りました。

月1回世話人会を持ち、ニュースを発行しています。  
興味のある方は、一緒にしませんか?下記世話人までご連絡を

児玉 090-8209-2391 米田 090-8658-8579

谷中 090-2101-4579 田中 090-8493-3378